

## ICT分野における技術戦略検討会（第2回）議事要旨

1 日時 平成30年1月16日（火）16:00～17:30

2 場所 総務省 第3特別会議室（11階）

3 出席者

（1）構成員（敬称略）

長谷川座長、中尾座長代理、内田構成員、江村構成員、澤谷構成員、田中構成員、眞野構成員

（2）ゲストスピーカー

阿野 KDDI株式会社 技術統括本部 運用本部 運用システム開発部長

（3）総務省

今林国際戦略局長、椿国際戦略局参事官、布施田技術政策課長、山碕国際政策課長、中溝通信規格課長、田沼研究推進室長、杵浦技術政策課統括補佐

4 議事要旨

（1）2050年以降の世界について

長谷川座長より、資料2-1に基づき、第2回検討会の議論のポイントについて、説明が行われた。その後、事務局より資料2-2に基づき、2050年以降の世界について、説明が行われた。

（2）情報通信技術をめぐる現状と課題

澤谷構成員より資料2-3に基づき、田中構成員より資料2-4に基づき、阿野部長より資料2-5に基づき説明が行われた。その後、意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり。

### 【技術開発へのアプローチ】

- 将来の技術を考える際、これまで何がなくなり、これから何がなくなるかを考えることが必要。
- 個々の細部の技術だけではなく、それらを統合した未来の姿を考えることが必要。
- 日本や日本人のアイデンティティを考えた上での将来創造が必要。
- ソフト化のメリットデメリットを踏まえ、柔軟・迅速に対応する体制が企業には必要。
- 技術が発展していく上で、倫理やプライバシーとの兼ね合いが必要。

- ソフト化の流れの中で、ソフトとハードのバランスを取ることが必要。
- 海外の模倣ではなく、日本や日本人の特性を踏まえた開発が必要。

#### 【コミュニティや個人へのフォーカス】

- 様々なリーダーが外に目を向け、社会を組み立てていくことが重要。そして、企業等が気軽に議論や検証を行えるような、公共サービス創造に貢献できる場（リビングラボ）が必要。
- 国民一人一人が ICT リテラシーを持ち、未知のことに挑戦する心持ちが重要。
- 個人の思いが世界を動かしている事実を認識すること。また、「やるべきだからやった」のではなく、「やりたいからやった」という価値観を大事にすべき。
- 「やりたいこと」が「できる」仕組みとして、ネットワークとソフトウェアは必要条件であり、個人の活動やコミュニティは十分条件になる。
- 政府は、大きなビジョンを示して個人の創発を加速させ、また、制約条件を解消することが必要。
- 都市全体で検証などを行える「リビングシティ」のように、日本にも「リビング〇〇」といった幅広い検証の場が必要。
- 既にやりたいことができるようになっている部分については、その周知や先例の積み上げが必要。リビングラボはその手段の1つ。
- 小さなアイデアを小さな組織で試していく仕組みが日本企業には必要。

#### 【その他】

- 最近の日本の規制は安全面に倒れてきているが、科学の進展の重要性を踏まえた規制緩和を国民に納得してもらうことも必要。
- 日本の規制は、国民が守ることができるものを設定しているが、海外は目指すべき内容が規定されている。ルール設定の発想転換も大事。

### (3) その他

事務局より資料2-6に基づき、今後のスケジュール(案)について説明が行われた。